

第3章 学区外進学者の動向

はじめに

別稿にもあるとおり、神奈川県における公立普通科高校の通学区域は、大きく見直されようとしている。その方向は、学区の拡大ないし撤廃、または学区外への志願の規制をゆるめるというものである。2001年度の入試からは、学区外枠がそれまでの上限8%から25%へ緩和された。その結果、学区外への進学者は増加した。このことが、県民が学区の拡大ないし規制の緩和を求めているということを示しているものなのかどうか、また、増加した学区外進学者は、実際にどのような地区の学校へ進学したのか（進学したかったのか）について、若干の検討を行ってみようとするのが、本稿の趣旨である。

1. 基礎データ

進学者の動向を知る基礎データは、「かながわの教育統計」である。現在、平成13年度版まで刊行されていて、入試データは2001年度入試までのものが収録されている。その中の、以下の表1～表3にあらわれている数について、グラフ化しながら検討を行った。

平11『神奈川の教育統計』第9表 平成11年度公立高等学校入学状況調査(H11. 5. 1現在)

学区名	出身学区																			合計
	横 浜 東 部	横 浜 北 部	横 浜 西 部	横 浜 中 部	横 浜 南 部	横 浜 臨 海	川 崎 南 部	川 崎 北 部	横 須 賀 三 浦	鎌 倉 藤 沢	茅 ヶ 崎	平 塚	秦 野 伊 勢 原	県 西	厚 木 海 老 名 栗 原 甲	大 和 座 間 綾 瀬	相 模 原 南 部	相 模 原 北 部 津 久 井		
入		20	8	16	6	10	3	0	1	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	68
学	横 浜 東 部	72		33	9	2	2	4	27	3	4	1	0	0	1	2	18	2	1	181
	横 浜 北 部	4	3		81	4	4	4	0	0	4	0	0	0	0	6	35	2	0	147
	横 浜 西 部	10	4	76		47	11	7	1	6	16	4	3	0	0	0	15	0	0	200
	横 浜 中 部	3	1	10	40		49	1	0	15	1	3	0	0	0	0	5	0	0	128
	横 浜 南 部	6	0	6	14	37		3	0	59	2	6	0	0	0	1	0	1	0	135
	横 浜 臨 海	9	1	1	3	2	1		52	1	0	0	1	1	0	0	0	0	1	73
	川 崎 南 部	0	8	1	0	0	0	52		3	1	0	1	1	0	0	8	8	0	83
	川 崎 北 部	0	1	0	3	8	11	2	0		3	3	2	0	0	0	0	0	0	33
	横 須 賀 三 浦	0	0	0	6	10	4	2	0	1	26		6	1	4	0	29	1	1	152
	鎌 倉 藤 沢	0	0	0	0	0	0	1	0	0	24	28		3	2	6	2	1	0	67
	茅 ヶ 崎	1	0	2	5	6	2	1	0	0	15	31	46		26	21	5	3	2	166
	平 塚	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	2	85	32		20	0	3	1	146
	秦 野 伊 勢 原	0	0	0	1	1	0	1	1	0	3	6	21	58	9		1	1	0	103
	県 西	0	1	2	1	0	0	0	0	0	2	26	6	60	3	40		12	9	162
	厚 木 海 老 名 栗 原 甲	0	2	16	3	0	3	0	0	2	9	3	1	17	3	90	9		2	160
	大 和 座 間 綾 瀬	4	15	9	1	1	1	2	12	1	4	2	1	14	2	17	33	65		184
	相 模 原 南 部	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	12	4	64		82
区	相 模 原 北 部 津 久 井																			
計		109	58	170	187	118	96	81	95	117	91	148	155	202	73	184	196	108	82	2270

(表1)

平12『神奈川の教育統計』第9表		平成12年度公立高等学校入学状況調査(H12. 5. 1現在)																		
学 区 名	出 身	学 区															合 計			
		横 濱 東 部	横 濱 北 部	横 濱 西 部	横 濱 中 部	横 濱 南 部	横 濱 臨 海 部	川 崎 南 部	川 崎 北 部	横 須 賀 三 浦	鎌 倉 藤 沢	茅 ヶ 崎	平 塚	秦 野 伊 勢 原	県 西	厚 木 海 老 名 愛 甲		大 和 座 間 綾 瀬	相 模 原 南 部	相 模 原 北 部 津 久 井
入 学 生	横 濱 東 部		14	12	20	1	7	12	2	2	0	0	0	0	0	0	4	0	0	74
	横 濱 北 部	92		30	14	2	4	1	23	1	1	0	0	1	0	0	18	5	1	193
	横 濱 西 部	1	4		77	2	1	0	0	0	7	1	0	3	0	4	26	2	0	128
	横 濱 中 部	7	1	43		68	12	4	0	11	14	1	2	0	0	12	1	0	176	
	横 濱 南 部	2	0	11	33		37	1	1	8	2	5	0	0	0	1	0	0	101	
	横 濱 臨 海 部	8	1	11	13	29		5	2	61	2	2	0	1	0	1	2	0	0	138
	川 崎 南 部	14	6	5	2	4	1		57	1	0	0	3	1	0	2	1	1	1	99
	川 崎 北 部	2	5	0	0	0	0	40		0	2	0	1	1	0	0	10	5	1	67
	横 須 賀 三 浦	0	0	0	4	4	20	0	0		4	4	0	0	0	0	0	0	0	36
	鎌 倉 藤 沢	0	0	6	5	4	3	1	2	14		56	8	1	4	1	26	2	0	133
学 区 外	茅 ヶ 崎	0	0	1	2	1	0	0	0	1	26		25	1	2	12	6	0	4	81
	平 塚	0	0	0	0	3	0	0	0	0	11	21		40	27	9	5	1	0	117
	秦 野 伊 勢 原	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	66		38	21	4	1	0	132
	県 西	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	7	16	60		0	1	0	0	88
	厚 木 海 老 名 愛 甲	0	0	4	0	0	0	0	2	0	4	26	10	52	7		30	14	2	151
	大 和 座 間 綾 瀬	1	2	18	5	0	0	0	2	0	13	1	3	13	2	67		11	4	142
	相 模 原 南 部	4	19	8	3	0	2	2	5	0	0	6	4	13	1	17	37		48	169
	相 模 原 北 部 津 久 井	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	11	52		76
計	131	53	150	180	118	87	66	97	99	89	130	138	187	81	145	194	95	61	2101	

(表2)

2. 進学者の動向

現在 18 ある学区のうち、任意の 12 学区について、学区外進学者の動向を検討した。また、地域的に関連の深いと思われる学区どうしを組として、相互の関係も見てみた。

2 - a 横浜東部・横浜北部学区

1981年に学区が縮小されるまでは、この2つの学区は旧横浜北部学区として1つの学区であった。分割後も、東部から北部へ生徒を受け入れる特例校が設定されていた。特例校措置は、2001年からの学区外枠拡大に飲み込まれる形でなくなったが、依然としてつながりの深い学区である。

次々ページの表4～表6、およびグラフ1～グラフ4からわかるように、学区外枠が25%に拡大された2001年度入試において、学区外入学者全体の人数は増えている。

しかし、よく見ると、目立って増えているのは、横浜北部 横浜東部である。これは、前述のように、もともと地域的につながりがあったものが、81年の学区分割で切れ、それが今回の学区外枠拡大によってふたたび進学先として考えることができるようになったためと思われる。

横浜西部 横浜北部という学区外進学者も、2001年度は2000年度に比べて5割増となっている。

平13『神奈川の教育統計』第9表 平成13年度公立高等学校入学状況調査(H13. 5. 1現在)

学 区 名	出 身 学 区																	合 計	
	横 濱 東 部	横 濱 北 部	横 濱 西 部	横 濱 中 部	横 濱 南 部	横 濱 臨 海	川 崎 南 部	川 崎 北 部	横 須 賀 三 浦	鎌 倉 藤 沢	茅 ヶ 崎	平 塚	秦 野 伊 勢 原	県 西	厚 木 海 老 名 愛 甲	大 和 座 間 綾 瀬	相 模 原 南 部		相 模 原 北 部 津 久 井
	入 学	入 学	入 学	入 学	入 学	入 学	入 学	入 学	入 学	入 学	入 学	入 学	入 学	入 学	入 学	入 学	入 学		入 学
横 濱 東 部		54	13	17	13	9	14	1	2	0	0	1	0	0	0	1	0	0	125
横 濱 北 部	106		45	3	4	2	0	31	4	1	0	0	1	0	2	16	0	1	216
横 濱 西 部	7	6		101	7	1	0	1	1	15	0	0	9	0	5	61	1	0	215
横 濱 中 部	40	4	70		79	12	19	0	9	21	6	2	0	1	0	11	0	1	275
横 濱 南 部	11	0	2	63		44	1	0	9	5	6	2	0	0	0	0	0	0	143
横 濱 臨 海	10	2	9	18	45		2	0	76	6	5	0	0	0	0	3	0	0	176
川 崎 南 部	16	3	1	2	0	1		85	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	108
川 崎 北 部	4	7	1	0	0	1	69		1	2	0	0	2	0	2	10	8	1	108
横 須 賀 三 浦	6	0	5	8	17	22	1	0		7	2	0	0	0	0	0	0	1	69
鎌 倉 藤 沢	2	3	12	15	7	2	0	1	31		100	11	0	15	8	33	7	0	247
茅 ヶ 崎	0	0	3	0	0	0	0	0	2	56		48	1	2	12	0	0	0	124
平 塚	1	0	0	7	0	0	0	0	0	33	38		46	55	12	4	0	0	196
秦 野 伊 勢 原	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	4	79		105	28	3	0	0	221
県 西	0	0	1	0	2	0	0	0	0	6	9	23	97		3	4	0	0	145
厚 木 海 老 名 愛 甲	0	3	11	0	0	0	0	3	0	7	24	11	89	10		58	20	10	246
大 和 座 間 綾 瀬	1	4	40	6	2	1	1	2	0	19	5	0	11	4	202		28	5	331
相 模 原 南 部	3	10	6	2	1	1	2	11	0	5	2	3	16	1	27	62		175	327
相 模 原 北 部 津 久 井	2	4	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	20	11	125		165
計	209	100	219	243	177	96	109	138	135	184	201	180	272	193	321	277	189	184	3437

(表3)

これについては、横浜市旭区の、主に相鉄線北側に住む中学生が、緑区南部の高校へ進んだのだと考えられる。地域的つながりというより、通学距離の近さという魅力があったため、今回の緩和によって志願者が増えたのであろう。

なお、横浜東部 横浜中部という進学者が大きく増加している。これについては、地域的つながりや通学距離という要素では説明しきれない。それ以外の要素がはたらいっているものと考えなくてはならない。

それから、これは本稿の趣旨から外れることであるが、付言しておきたい。それは、横浜北部学区の状況についてである。同学区は、その社会的条件により、生徒数があまり減少していない。したがって、再編によって統合される学校がないにもかかわらず、1校あたりのクラス数がなかなか減少しないのである。それに加えて、2001年度入試では、学区外への進学者が100名、学区外からの進学者が216名で、差引116名、3クラス分の流入超過であった。学区外からの進学者のために、教育条件の整備がおくれたり、またそもそも学区内の生徒が自分の住む学区の高校へ進学しにくくなってしまったり、ということが起こっているわけで、これは見過ごしてはならない問題である。このような場合、あえて流入規制を設けて、地域の子供たちの教育を受ける権利を守る必要もあるのではないかと考える。

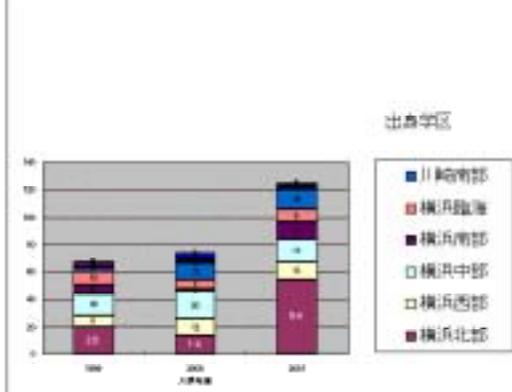
横浜東部学区への入学者

出 身 学 区	入 学 年 度	1999	2000	2001
相模原北部津久井	1999	20	8	16
相模原南部	1999	6	10	3
川崎北部	1999	3	0	1
川崎南部	1999	0	1	2
横浜臨海	1999	0	0	0
横浜中部	1999	0	0	0
横浜西部	1999	0	0	0
横浜東部	1999	0	0	0
相模原三浦	1999	0	0	0
大和区間緑瀬	1999	0	0	0
厚木海老名栗原	1999	0	0	0
泰野伊勢原	1999	0	0	0
茅ヶ崎	1999	0	0	0
平塚	1999	0	0	0
計	1999	26	12	20
	2000	14	12	20
	2001	54	13	17

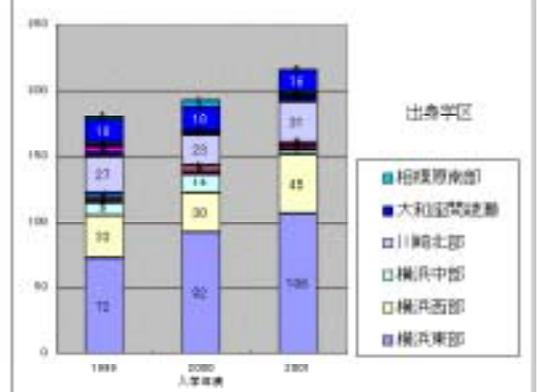
横浜北部学区への入学者

出 身 学 区	入 学 年 度	1999	2000	2001
相模原北部津久井	1999	72	33	9
相模原南部	1999	2	2	4
川崎北部	1999	4	27	3
川崎南部	1999	1	1	0
横浜臨海	1999	0	0	0
横浜中部	1999	0	0	0
横浜西部	1999	0	0	0
横浜東部	1999	0	0	0
相模原三浦	1999	0	0	0
大和区間緑瀬	1999	0	0	0
厚木海老名栗原	1999	0	0	0
泰野伊勢原	1999	0	0	0
茅ヶ崎	1999	0	0	0
平塚	1999	0	0	0
計	1999	72	33	9
	2000	82	30	14
	2001	109	45	3

横浜東部への学区外入学者数



横浜北部への学区外入学者数



横浜東部学区からの進学者

入 学 年 度	1999	2000	2001
相模原南部	4	1	7
相模原三浦	10	7	40
川崎北部	3	2	11
川崎南部	6	6	10
横浜臨海	9	14	16
横浜中部	0	0	6
横浜西部	0	0	2
横浜東部	0	0	0
相模原三浦	0	0	0
大和区間緑瀬	0	0	0
厚木海老名栗原	0	0	0
泰野伊勢原	0	0	0
茅ヶ崎	0	0	0
平塚	1	0	1
計	109	131	209

横浜北部学区からの進学者

入 学 年 度	1999	2000	2001
相模原南部	3	4	6
相模原三浦	4	1	4
川崎北部	1	0	0
川崎南部	0	1	2
横浜臨海	1	6	3
横浜中部	8	5	7
横浜西部	1	0	0
横浜東部	0	0	3
相模原三浦	0	0	0
大和区間緑瀬	0	0	0
厚木海老名栗原	0	0	0
泰野伊勢原	1	0	0
茅ヶ崎	0	0	0
平塚	0	0	0
計	58	53	100

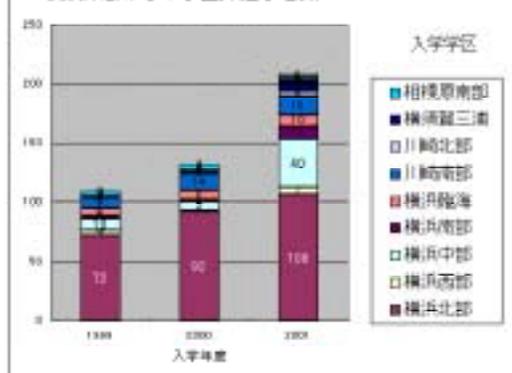
(表4)(表5)

(グラフ1)(グラフ2)

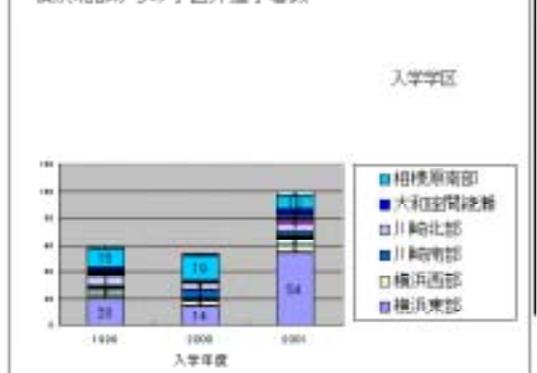
(表6)(表7)

(グラフ3)(グラフ4)

横浜東部からの学区外進学者数



横浜北部からの学区外進学者数



2 - b 横浜西部・横浜中部学区

1981年に学区が縮小されるまでは、この2つの学区は旧横浜中部学区として1つの学区であった。分割後は、東海道線沿線が中部学区、相鉄線沿線が西部学区と、通学のしやすさという点からうまく分割されている。

表8～表11およびグラフ5～グラフ8からわかるように、これらの学区においても、2001年度入試では学区外進学者が増加している。横浜西部学区へは、隣接する大和座間綾瀬学区からの入学者が大きく増加した。これは、行政区域で区切られた学区内の高校だけでなく、事実上の生活圏である横浜西部の高校まで含めて進学先の候補になっているということであろう。なお、2001年度入試におけるこの学区の学区外志願者（第一希望）の最も多かったのは、希望ヶ丘の57名、ついで旭および中沢の43名であった。

横浜中部では、横浜西部からの他に、横浜南部からの入学者が増加した。この学区は、かつて横浜南部から特例校措置で生徒を受け入れており、南部学区の中学生にとって進学先として考えやすいという事情がある。学区外枠がひろがり、志願しやすくなったのもであろう。しかし、前述したが、横浜東部からの進学者増は、そのような理由からでは説明できない。2001年度入試におけるこの学区の学区外志願者（第一希望）の最も多かったのは、横浜平沼の94名、ついで豊田の63名であった。

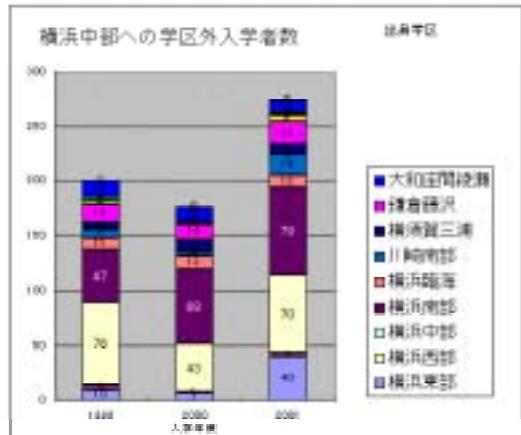
横浜中部からは、横浜南部学区への進学者が増加した。かつての特例校措置の動きとは逆である。2001年度入試における、横浜南部学区の学区外志願者（第一希望）の最も多かったのは、柏陽の51名であった。

横浜西部学区への入学者

出	身													学	区	合			
出	横	横	横	横	横	川	川	横	鎌	平	平	平	厚	大	相	相	計		
	横	横	横	横	横	川	川	横	鎌	平	平	平	厚	大	相	相			
	東	北	西	中	南	鶴	南	北	三	野	野	野	野	野	野	野			
1999	4	3		81	4	4	0	0	0	0	0	0	0	6	25	2	0	147	
2000	1	4		77	2	1	0	0	0	7	1	0	3	0	4	26	2	0	150
2001	7	6		101	7	1	0	1	1	15	0	0	0	0	5	68	1	0	215

横浜中部学区への入学者

出	身													学	区	合			
出	横	横	横	横	横	川	川	横	鎌	平	平	平	厚	大	相	相	計		
	横	横	横	横	横	川	川	横	鎌	平	平	平	厚	大	相	相			
	東	北	西	中	南	鶴	南	北	三	野	野	野	野	野	野	野			
1999	10	4	26		47	11	7	5	6	16	4	3	0	0	0	15	0	0	200
2000	7	1	43		68	12	4	0	11	14	1	2	0	0	0	12	1	0	178
2001	40	4	70		79	12	18	0	9	21	6	2	0	1	0	11	0	1	275



(表8)(表9)
(グラフ5)(グラフ6)

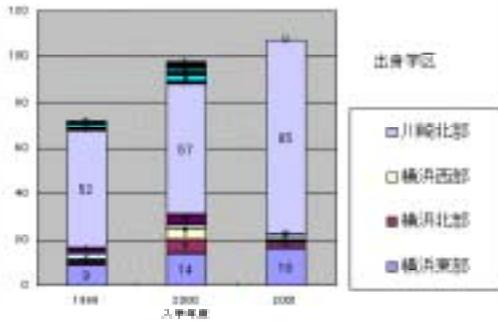
川崎南部学区への入学者

出	身															字	区	合
横	横	横	横	横	川	川	横	横	平	平	泰	厚	大	相	相	計		
東	北	西	中	南	臨	海	須	須	須	三	清	須	賀	三	須	計		
1999	2	1	1	3	2	1	52	1	0	0	1	1	0	0	0	73		
2000	14	6	5	2	4	1	57	1	0	0	3	1	0	2	1	99		
2001	16	3	1	2	0	1	85	0	0	0	0	0	0	0	0	108		

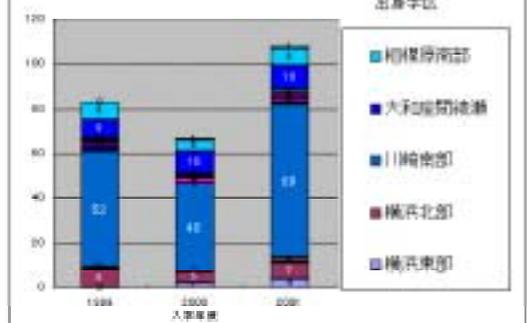
川崎北部学区への入学者

出	身															字	区	合
横	横	横	横	横	川	川	横	横	平	平	泰	厚	大	相	相	計		
東	北	西	中	南	臨	海	須	須	須	三	清	須	賀	三	須	計		
1999	0	2	1	0	0	0	52	0	2	1	0	1	1	0	0	83		
2000	2	5	0	0	0	0	40	0	2	0	1	1	0	0	10	67		
2001	4	7	1	0	0	1	69	1	2	0	0	2	0	2	10	109		

川崎南部への学区外入学者数



川崎北部への学区外入学者数



(表12)(表13)

(グラフ9)(グラフ10)

川崎南部学区からの進学者

入	横	東	部	1999 2000 2001						
				1999	2000	2001				
学	横	東	部	3	12	14				
	横	北	部	4	1	0				
	横	西	部	4	0	0				
	横	中	部	7	4	19				
	横	南	部	1	1	1				
	横	臨	海	3	5	2				
	川	崎	南	部	52	40	69			
	横	須	賀	三	清	2	0	1		
	横	須	賀	三	清	0	1	0		
	横	須	賀	三	清	0	1	0		
	横	須	賀	三	清	0	1	0		
	横	須	賀	三	清	0	1	0		
	学	平	野	伊	勢	原	1	0	0	
泰		野	伊	勢	原	0	0	0		
厚		木	海	老	名	雲	1	0	0	
厚		木	海	老	名	雲	0	0	0	
厚		木	海	老	名	雲	0	0	0	
大		和	区	間	緑	洲	0	0	1	
大		和	区	間	緑	洲	0	0	1	
大		和	区	間	緑	洲	0	0	1	
大		和	区	間	緑	洲	0	0	1	
大		和	区	間	緑	洲	0	0	1	
大		和	区	間	緑	洲	0	0	1	
大		和	区	間	緑	洲	0	0	1	
区		相	模	原	南	部	2	2	2	
	相	模	原	北	部	津	久	井	0	0
計					81	66	109			

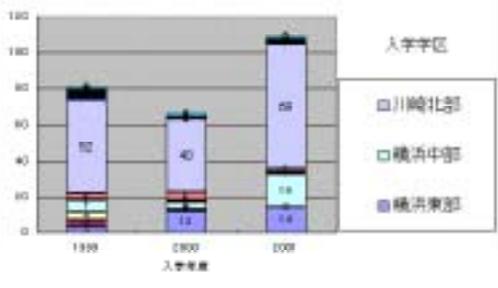
川崎北部学区からの進学者

入	横	東	部	1999 2000 2001						
				1999	2000	2001				
学	横	東	部	0	2	1				
	横	北	部	27	23	31				
	横	西	部	0	0	1				
	横	中	部	1	0	0				
	横	南	部	0	1	0				
	横	臨	海	0	2	0				
	川	崎	南	部	52	57	85			
	横	須	賀	三	清	0	0	0		
	横	須	賀	三	清	0	0	0		
	横	須	賀	三	清	1	2	1		
	横	須	賀	三	清	0	0	0		
	横	須	賀	三	清	0	0	0		
	学	平	野	伊	勢	原	0	0	0	
泰		野	伊	勢	原	1	1	1		
厚		木	海	老	名	雲	1	0	0	
厚		木	海	老	名	雲	0	2	3	
厚		木	海	老	名	雲	0	2	3	
大		和	区	間	緑	洲	0	2	2	
大		和	区	間	緑	洲	0	2	2	
大		和	区	間	緑	洲	0	2	2	
大		和	区	間	緑	洲	0	2	2	
大		和	区	間	緑	洲	0	2	2	
大		和	区	間	緑	洲	0	2	2	
大		和	区	間	緑	洲	0	2	2	
区		相	模	原	南	部	12	5	11	
	相	模	原	北	部	津	久	井	0	0
計					85	97	139			

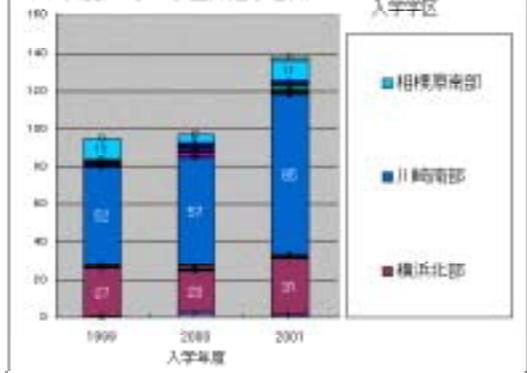
(表14)(表15)

(グラフ11)(グラフ12)

川崎南部からの学区外進学者数



川崎北部からの学区外進学者数



2 - d 県西学区・秦野伊勢原学区

この2つの学区は、隣接しているが、同一の学区であったことはない。今回は、県の西端にあって、移動の方向が限られる県西学区と、県西・平塚・厚木海老名愛甲の各学区に囲まれている秦野伊勢原学区とで、どのような移動が起こっているのかを見る目的でこの項を設けた。

この下および次ページの、表16～表19とグラフ13～グラフ16からわかるように、県西学区からは秦野伊勢原学区の高校に多数の生徒が入学している。ついで、平塚学区への入学者が多い。学区外枠が広がった2001年度には、学区外進学者数が2倍以上に増加したが、これはまさに、学区外へ進学したくても枠が8%であったために進学できにくかったものが、可能性が広がって志願したものであろう。その大多数のものが、隣接する2学区へ入学している。

しかし、県西学区から鎌倉藤沢学区への入学者も少数ながら増えている。これは、2つ飛び越して3つ目の学区への遠距離通学である。東海道線に乗れば小田原から藤沢まで40分で着くとか、定期代もバスに比べればそれほどでもない、という問題ではなからうと思う。公立高校として、このような通学形態をどう考えるのか、それは学区に対する考え方の根幹に直結する課題である。

秦野伊勢原学区については、厚木海老名愛甲・県西・平塚の、隣接する3つの学区へ生徒が進学している。この学区の特徴は、学区外進学率が高いことである。2001年度の公立全日制普通科への進学者数約1900名のうち、300名近くのもが学区外へ進学している。また、逆に、この学区の高校6校は、いずれも学区外から入学者を多く受け入れている(25%枠に対する充足率が各校とも30%以上、秦野高はそれよりずっと高い)。小さい学区であるが、決してその中で閉じているわけではないようである。

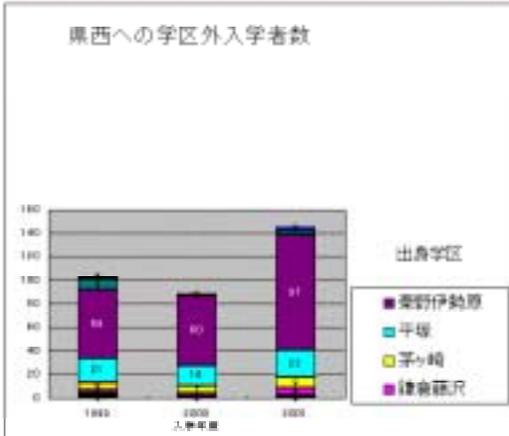
県西学区への進学者

出	進														学	区	合
県	横	横	横	横	横	川	川	横	鎌	茅	平	秦	厚	大	相	相	計
西	東	北	西	中	南	南	北	三	野	野	塚	野	木	和	模	模	計
部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	計
1999	0	0	0	1	1	0	1	0	3	6	21	58	9	1	1	0	103
2000	0	0	0	2	0	0	0	0	2	7	16	60	0	1	0	0	80
2001	0	0	1	0	2	0	0	0	6	9	23	97	3	4	0	0	145

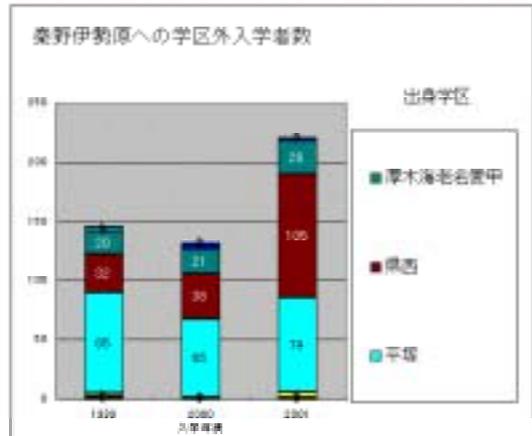
秦野伊勢原学区への進学者

出	進														学	区	合
県	横	横	横	横	横	川	川	横	鎌	茅	平	秦	厚	大	相	相	計
西	東	北	西	中	南	南	北	三	野	野	塚	野	木	和	模	模	計
部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	計
1999	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	2	85	32	20	0	3	141
2000	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	66	38	21	4	1	132
2001	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	4	79	105	29	3	0	221

県西への学区外入学者数



秦野伊勢原への学区外入学者数



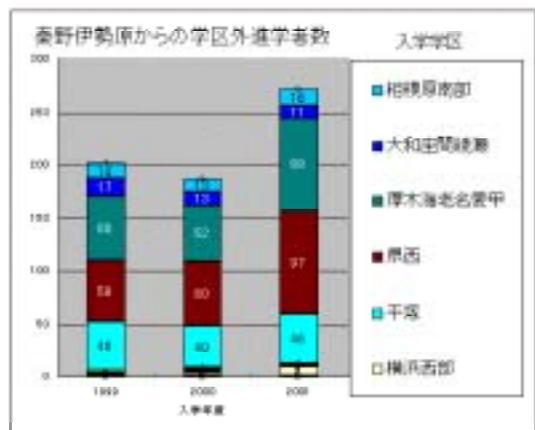
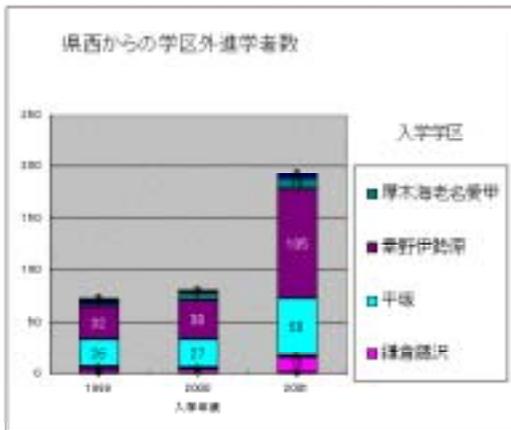
(表16)(表17)

(グラフ13)(グラフ14)

県西学区からの進学者				秦野伊勢原学区からの進学者					
1999 2000 2001				1999 2000 2001					
学 区	入	横 浜 東 部	0	0	0	横 浜 東 部	0	0	0
	入	横 浜 北 部	1	0	0	横 浜 北 部	0	1	1
	入	横 浜 西 部	0	0	0	横 浜 西 部	0	3	8
	入	横 浜 中 部	0	0	1	横 浜 中 部	0	0	0
	入	横 浜 南 部	0	0	0	横 浜 南 部	0	0	0
	入	横 浜 臨 海	0	0	0	横 浜 臨 海	0	1	0
	入	川 崎 南 部	0	0	0	川 崎 南 部	1	1	0
	入	川 崎 北 部	0	0	0	川 崎 北 部	1	1	2
	入	横 須 賀 三 浦	0	0	0	横 須 賀 三 浦	0	0	0
	入	鎌 倉 藤 沢	4	4	15	鎌 倉 藤 沢	1	1	0
	入	茅 ヶ 崎	2	2	2	茅 ヶ 崎	3	1	1
	入	平 塚	26	27	55	平 塚	46	40	45
	入	秦 野 伊 勢 原	32	38	105	秦 野 伊 勢 原	58	60	87
	入	県 西				県 西	58	60	87
	入	厚 木 海 老 名 愛 甲	3	7	10	厚 木 海 老 名 愛 甲	60	52	85
入	大 和 座 間 綾 瀬	3	2	4	大 和 座 間 綾 瀬	17	13	11	
入	相 模 原 南 部	2	1	1	相 模 原 南 部	14	13	16	
入	相 模 原 北 部 津 久 井	0	0	0	相 模 原 北 部 津 久 井	1	0	0	
入	計	73	81	183	計	202	187	272	

(表18)(表19)

(グラフ15)(グラフ16)



2 - e 厚木海老名愛甲学区・大和座間綾瀬学区、および相模原南部学区・相模原北部津久井学区

1981年に学区が縮小されるまでは、これら4つの学区は旧県央学区であった。分割された旧県央学区、旧県北学区が、その後、1990年にそれぞれ分割され、現在の4つの学区になっている。

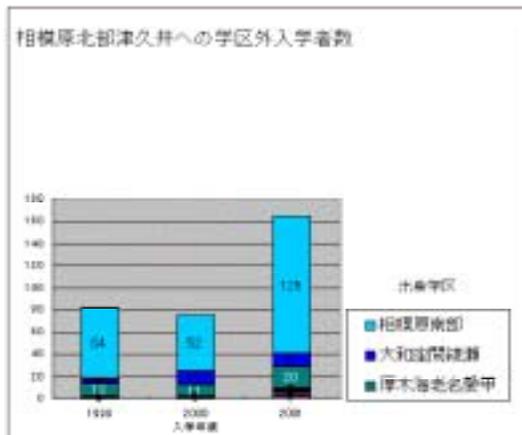
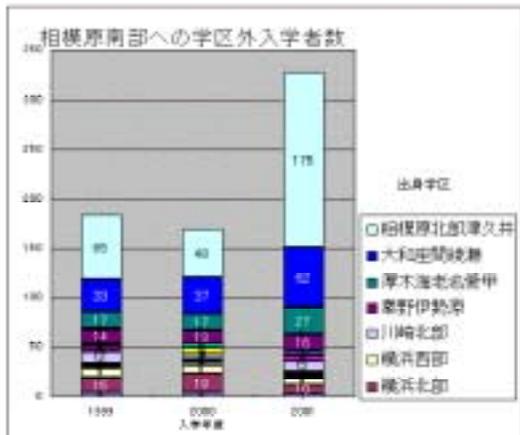
いままで見てきた各学区と同様の分析になるが、まず、2001年の学区外枠拡大によって、学区外への入学、また学区外からの入学とも、どの学区でも増加していることが読みとれる。そして、いずれも、分割前に同一学区であった相手の学区との間で出入りが多い。それ以外の特徴としては、厚木海老名愛甲学区への、秦野伊勢原学区からの入学が多いこと、大和座間綾瀬学区からいろいろな学区へ入学していることがあげられる。これらはいずれも、交通機関の事情によるものであり、学区外枠の拡大によってそのような移動が増加したと言えるにせよ、全県を見渡して特定の学校へ進学しているというようなものではないのかもしれない。あるいは、そのような「特定の学校」が、たまたま隣接する学区にあった、ということかもしれない。このあたりは、現状では、憶測の域を出ないものとならざるを得ない。

相模原南部学区への進学者

出	身															区	合	
	横	横	横	横	横	川	横	鎌	茅	平	泰	厚	大	相	相			
	東	北	西	中	南	臨	川	須	倉	ヶ	野	木	和	模	模			
1999	4	15	9	1	1	2	12	1	4	2	1	14	2	17	33	65	184	
2000	4	18	8	3	0	2	2	5	0	0	6	4	13	1	17	37	48	148
2001	3	10	6	2	1	1	2	11	0	5	2	3	16	1	27	62	175	323

相模原北部津久井学区への進学者

出	身															区	合	
	横	横	横	横	横	川	横	鎌	茅	平	泰	厚	大	相	相			
	東	北	西	中	南	臨	川	須	倉	ヶ	野	木	和	模	模			
1999	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	12	4	18	82
2000	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	5	26	26
2001	2	4	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	20	11	125	165	165



相模原南部学区からの進学者

入	身															区	合
	横	横	横	横	横	川	横	鎌	茅	平	泰	厚	大	相	相		
	東	北	西	中	南	臨	川	須	倉	ヶ	野	木	和	模	模		
1999	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
2000	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	7
2001	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5
1999	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2001	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1999	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
2000	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
2001	8	5	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	21
1999	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2000	1	2	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	10
2001	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4
1999	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4
2000	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
2001	12	14	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	46	46
1999	8	11	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47	47
2000	65	48	175	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	288	288
2001	64	52	125	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	241	241
計	108	95	189	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	392	392

相模原北部津久井学区からの進学者

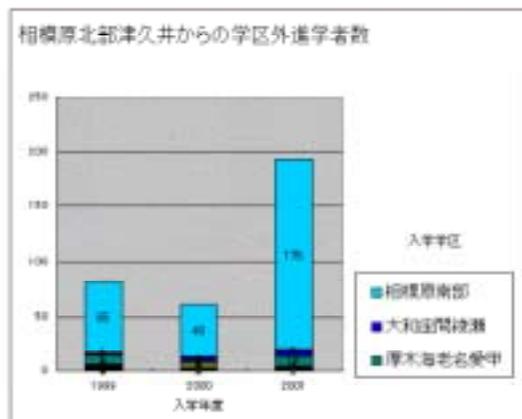
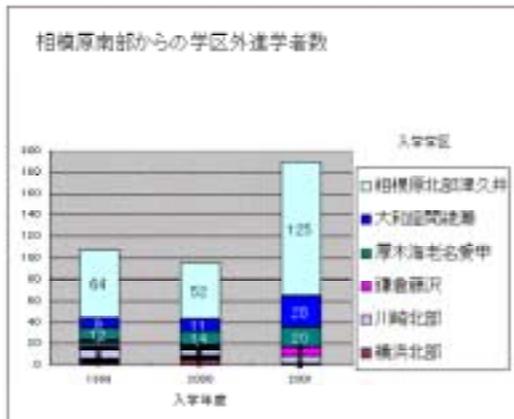
入	身															区	合
	横	横	横	横	横	川	横	鎌	茅	平	泰	厚	大	相	相		
	東	北	西	中	南	臨	川	須	倉	ヶ	野	木	和	模	模		
1999	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2000	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
2001	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1999	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2001	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1999	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2001	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
1999	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
2000	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
2001	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1999	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2001	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
1999	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
2000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2001	9	2	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	21
1999	2	4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	11
2000	65	48	175	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	288	288
2001	65	48	175	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	288	288
計	82	61	184	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	327	327

(表24)(表25)

(グラフ21)(グラフ22)

(表26)(表27)

(グラフ23)(グラフ24)



3 . 学区外進学者の動向

以上の検討から、以下のようなことが言える。

- (1) 学区外（4条）入学枠を広げると、たしかに学区外進学者数は増加する。
- (2) 進学先の学区は、以前に同一の学区であったか、あるいは交通の便がよく通学しやすい学区が選ばれる。
- (3) それらの学区は、結果的に、隣接する学区がほとんどである。
- (4) 特定の学校へ進むために、離れた学区へ通学するような例も、学区外枠の拡大にあわせて若干増加する。

高総検としては、県民の教育を受ける権利を保障しつつ、そのための学区というものが、通学時間の不合理等を生じて結果としてその権利・機会を損なうことのないよう、提言を行ってゆかなくてはならないと考える。そして、それは、「県立高校改革推進計画」が進行中であるという状況のもと、極めて難しいものとなってゆくであろう。